



精神保健福祉家族会

仙台みどり会会報

第2号(通算70号) 令和元年7月12日発行 〒981-3204 仙台市泉区寺岡1-20-16 黒川方 仙台みどり会事務局
電話・FAX 022-377-1966 家族会携帯 080-2812-4835 [9時~17時] ホームページ <https://sen-midori.jimdofree.com/>



分かちあい、学びあいを大切に

～力を入れていきたい今年度の重点事業～

精神保健福祉家族会 仙台みどり会
会長 黒川 洋

□はじめに.....

仙台みどり会は、去る5月9日、仙台市福祉プラザで第1回定期総会を開催しました。

第1回とは言っても、本会は決して真新しい団体ではなく、これまでもお伝えしたとおり平成元年の仙台市合併の際に近隣2市2町の4家族会も合併して、「仙台市精神障害者家族会みどり会」となったのが始まりでした。

その頃は、精神障がい者にはまだ福祉制度が整ってなかったために、家族会が自ら立ち上がり、福祉作業所やグループホームを作って、運営に携わるという状況が全国に広がっていました。「わが子らのために、自分たちがやらなければ誰がやってくれるのか」という時代でした。

みどり会も例外ではなく、平成18年までに2つの作業所と2つのグループホームを立ち上げ、その間、平成15年に法人格を取得して「NPO

法人みどり会」と改名し、施設部会と家族部会の2部会体制で運営を行ってきました。

時代は移り変わり、今や障害福祉サービスは専門家や資格を持った職員が行っていく時になったと私たちは判断し、家族は家族会として本来の活動を行っていくべきと結論しました。

昨年11月30日に家族会の「発足式」を挙げて、これまでのNPO法人より分離、民間市民団体としての「精神保健福祉家族会 仙台みどり会」が発足しました。

この発足式の開催にあたって、これまでのNPO法人の会員である皆さまには「新しい会に入るか、やめるか」という決断を求めました。「返信用届出書」に家族会に入会、退会のいずれかを○で囲んでいただき、黒川宅へ返送をお願いしました。

目次

1~3ページ	分かちあい、学びあいを大切に	会長	黒川 洋
3~5ページ	北海道・東北ブロック研修会 宮城大会のご案内		黒川 洋
5~6ページ	腑に落ちる物語		磯谷 裕治
6~9ページ	会員3名より寄稿	M・O(男性)、K・T(女性)、M・H(女性)	
9~10ページ	研修会情報・「仙台みどり会懇談会」開催日程		

家族会として、やっている内容は変わらなくても、組織としては別団体となるので、この手続きは欠かせないものだったのです。でも、退会者がたくさんいたらどうしようと、私は不安な気持ちでいっぱいでした。

結果は、入会に〇が74名、退会者は11名でした。退会の理由を確認したところ、ほとんどは高齢で会へ参加できない、歩くのが大変、夫の介護中など。高齢の会員が多い私たちには、仕方のないことだと思います。

今年度、仙台みどり会の会員は80名でスタートしました。まだまだ小さな団体ですが、私たちの団体をまだ知らない人、知ってい

ば活動に加わりたい方はたくさんいるはずで、今後も、PRに力を入れてまいります。皆様にも、お知り合いのご家族がいらっしゃったら、どうぞお声がけをお願いいたします。

仙台みどり会は、会員家族お互いが精神障がい者を抱えているという、同じ悩みを共有するピア（＝仲間）であることを活かして、家族会本来の活動である家族同士による学びあい、分かち合い、そして精神保健福祉の普及・啓発等の活動を行ってまいります。

では、今年度みどり会の計画の中で、特に力を入れたい重点事業を2点お伝えします。

(1) 「仙台みどり会懇談会」と「お昼の会」の定期開催……………

□仙台みどり会懇談会について

毎月1回、仙台市福祉プラザにて定期開催しています。

懇談会には、会員や未加入のご家族が自由に参加して、悩みや思いを出し合ったり、精神保健福祉についていっしょに学習しています。参加した皆さんも、運営に当たる役員もいっしょに元気になることが大きな目的です。

みどり会の事業は、会員の皆様の会費で支えられているので、未加入の皆様には、「会員になっていっしょに会を応援していただませんか。」と声掛けさせていただいています。ご協力をよろしくお願いいたします。

今は、参加者が多くなったので、大きな会場を使用しています。そして参加者が20名を超えるときには、2グループに分け、それぞれに経験の長い役員がリーダー、コリーダー(副リーダー)になって入っています。今後は、リーダーやコリーダーになっていただく方を増やしたいと思っています。

誰にでもわかりやすく懇談会の進め方やポイントをまとめたものがあればいいと考えて、昨年「懇談会運営マニュアル」というものを作って、役員会の中で学習をしてきました。

実は、懇談会の運営にはコンボで作成したプログラム「家族による家族学習会」を参考

にしています。また、私が施設勤務だった時に学んだ経験も生かしています。今後もよい懇談会にしていくために知恵を出し合っていくことが必要と思います。

将来は、もっと懇談会の参加者が増えて、例えば家族が親のグループとか、きょうだいのグループ、配偶者のグループなどと分けていけば、話し合いがもっと深まっていくだろうと、思いが膨らみます。

運営に関心のある方や懇談会経験の長い方は、いっしょに学習の機会を持ちながら、リーダーやコリーダーに挑戦していただきたいなあと考えています。

□お昼の会について

毎回懇談会の終了後、お昼から2時までの時間をゆっくり息抜きしていただく時間として利用していただいています。

「お弁当を食べたり、お茶飲み、雑談、個別の相談もどうぞ」と声掛けしていますから、けっこう自由にテーブルが移動して、お昼を食べたり、雑談をしている方もいらっしゃいます。

また、個別の相談を希望する方が、面談できる場でもあります。私たち役員が対応させていただきますので、必要な時ご利用ください。いっしょに考えさせていただきます。

「皆さんに聴いていただきたい」と、二胡という楽器で懐かしい曲を披露していただいたAさん、ありがとうございます。また、当事者のSさんという方からは、ウクレレのすてきな演奏も聞かせていただき、皆で合唱も

楽しむことができました。

お昼の会は、参加が自由な特にルールのないひと時です。今後もお昼の会が楽しみです。私は、おにぎりをかじりながら皆さんの雑談を聞いているのが好きです。

(2) 「家族による家族学習会」の実施に向けた取り組み

「家族による家族学習会」(以下、家族学習会といいます)は、コンボが開発し、現在は「みんなねっと」が全国に普及・啓発を行っている家族による家族のためのピア教育心理プログラムです。

1回3時間、1コース5回で行われ、同じ立場の家族4~5名が「担当者」として、チームで小グループ(12~15名程度)の家族学習会を運営、進行します。

参加する家族は、お互いのつらさや悩みの体験を出し合いながら、専用のテキストを使って輪読し、体系的にわかりやすく精神保健福祉の知識を学んでいきます。参加家族だけでなく、担当者としての家族もいっしょにお互いが元気を得られるプログラムとして、全国に広がっています。

昨年度は、仙台市が実施する精神障がい者家族支援事業(ピア家族相談員育成)に乗って、この家族学習会が開催され、仙台みどり会より5名の役員が参加、最後に行われた担当者研修会も受講して、全員が「担当者」の資格を入手することができました。みんなネ

ットの家族学習会担当の指導者(全員、家族です)には、何度も来仙いただいて指導・協力をいただきました。

すべて、費用が掛かることなので、今のみどり会にできることではありません。今年度も改めて仙台市が主催する家族学習会に、今度は私たち仙台みどり会の役員が担当者として参加し、家族学習会の運営を学んでいきます。仙台市の取り組みには感謝の思いです。

こうして私たちは、家族学習会の運営を体験できると同時に、今後私たちが家族学習会を自主開催していく力を養うことができます。

また同時に、家族学習会の修了者が、その後、担当者研修会を受講することで、新たな担当者(家族学習会を運営できる人)が誕生していくのです。

私たちが夢見ていた家族学習会の自主運営を、仙台市内、宮城県内に広げていくことも遠い日ではありません。



2019年度北海道・東北ブロック家族研修会

宮城大会のご案内

ぜひ、ご参加ください!

宮城大会実行委員長 黒川 洋

今年度は宮城で開催.....

北海道と東北6県の各精神障がい者家族連合会は、毎年、持ち回りで北海道と東北全体をカバーする大規模な研修会を行っており、

今年は9月24日(火)に宮城大会を開催します。

実施に向けて、宮家連に所属する県内家族会より大会実行委員13名が選出、仙台みどり

会より黒川が実行委員長に推され、皆で1年前より準備を進めてきました。

昨年の大会は山形、一昨年は岩手で開催、その内容は中央からの著名な先生や専門家が演壇に立っていました。

精神科医の夏苺郁子先生や糸川昌成先生、東洋大学の白石弘巳先生など全国区の先生が、

毎年のように大会の講演を担っていらっしゃるのには家族の人気をうかがえます。

では、宮城大会においては、どのような先生に来ていただきましょうか、という話し合いから私たちの実行委員会はスタートしました。



□宮城・仙台をアピールしたい……………

中央から著名な先生方をお招きして研修の糧とすることは、私たち家族会にとっても意義あることです。地方に住む私たちにとっては、そのような機会にはなかなか恵まれませんから。

しかし、どんな研修会を宮城大会において行っていかを考えていた時、宮城はそんなに中央からかけ離れて、何もないところなのだろうか、宮城・仙台における活動を通じて、

北海道・東北ブロック家族会の皆さんに、アピールするものを提供することはできないだろうかと考えました。

そして私たちは、私たち宮城の活動をアピールするための「開催テーマ」を決定し、お話をいただく講師の先生方を宮城県内より厳選、お願いをして宮城大会の会場にお迎えできることになりました。

開催テーマ 「時代はかわる、家族はかわる」

～これからの地域ケアと、いっしょに学べる家族会活動～

10:20～12:00 基調講演

演題「これからの地域医療と福祉への期待」

～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

講師 東北福祉大学教授・せんだんホスピタル副院長

精神科医 西尾 雅明 先生



14:00～15:40 シンポジウム

テーマ「これからの地域社会を考える」

～これからの地域ケアと、いっしょに学べる家族会活動～

司 会 釣舟 晴一 氏 (社会福祉法人ゆうゆう舎理事長)

シンポジスト

(1)これからの地域ケアを考える立場より

小松 容子 氏 (宮城大学看護学群 精神看護学領域)

(2)当事者へ制度やサービスをつなぐ立場より

西村 真希 氏 (地域支援センターぱれっとよしおか 相談支援専門員)

(3)家族の立場より

関本 則子 氏 (多賀城市さざんか会)

□お話しいただく内容……………

「午前の基調講演と午後のシンポジウムは、一貫してつながっているものでありたい。」
基調講演でお話しいただく西尾先生、シンポジウムでお話しいただく小松先生、西村先

生、関本さまには、打ち合わせの場でお話し
いただきたい内容について、強くお願いしま
した。
以下は、その内容です。

「時代の移り変わりとともに、医療や福祉サービスの質と量はかわってきている。
しかし、悩みやつらさを抱える家族の現実は今も変わらない。
いま、時代はかわりつつあることを、知らない家族は多い。家族は学ばなければならない。
『時代とともに、家族も学びつつ、かわっていく。』
研修会における主語は、一貫して「家族」、テーマは「家族会＝ピアの支えあい」である。」

皆様には、ぜひ宮城における精神保健の長
く厳しい歴史を経て、現在に根付き、今後に
向けて語られる期待と可能性に耳を傾けてい
ただきたいと思います。

いっしょに、時代はかわりつつあることを
実感しましょう！
いっしょに、家族会（ピアの支えあい）を
盛り上げましょう！

日 時：令和元年 9 月 24 日（火）午前 10 時～午後 3 時 50 分

場 所：仙台市シルバーセンター 交流ホール

内 容：2019 年度北海道・東北ブロック家族会 精神保健福祉促進研修会

参加費：一般(家族) 2,000 円 当事者・学生 1,000 円

申 込：みどり会会員：同封の振込用紙で、8 月 2 日まで申し込みください。

または、7 月 21 日懇談会時、役員へ参加費を添えて申し込み下さい。

会員以外の方：同封の申込書で、それぞれ下記へお申し込みください。

JTB 仙台支店「精神保健福祉促進研修会係」

電話 022-263-6712 Fax022-263-6693

※申込書は、仙台みどり会ホームページよりダウンロードも可能です。

申込締め切り：8 月 2 日（金）

お問い合わせ：みどり会携帯 080-2812-4835 （受付時間 9 時～17 時）

みどり会事務局 022-377-1966 （会長宅）



「腑に落ちる物語」

仙台みどり会役員 磯谷裕治

東京都医学総合研究所の糸川昌成先生は、
その講演の中で「腑に落ちる物語」という、
お話をされました。

毎年の正月になると、症状が再発してお薬
を増やさなければならない患者さんがいまし
た。

松沢病院の前院長岡崎祐士先生は、「生活臨床」の考え方で、この患者さんの治療をしました。

長男である患者さんと同居していた両親に話をして、正月に実家を訪れる、彼の弟夫婦の孫へのお年玉は、本家の名代として、長男から渡してもらうことにしたそうです。

また、弟夫婦から「お兄さんが親と一緒に暮らしてくれているから、僕たちは安心して離れて暮らしていただける」と感謝を言ってもらえるよう、話しました。

その結果、正月の度に悪化していた症状は落ち着き、その後は入院することなく暮らしているそうです。

糸川先生は、統合失調症からの回復には、服薬のような医学的治療だけではなく、心の問題(生活の環境調整、特に家族関係)の見直しが大事だと述べられています。

つまり、患者さんは、長男としての世間一般の役割を果たせず、正月の度に傷に塩を塗られる思いで、「自分には生きる場所がない」と苦しんで荒れていたのです。その世間的な「長男のつとめ」の物語に囚われていた彼に、松沢先生は「病気でもできる長男の役割」の

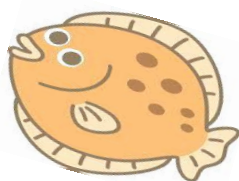
現実を開いたのです。

特に大事なものは、両親と弟夫婦が長男の気持ちにくみ取って、「病気だから長男だけ役に立たなくても仕方ない」と、彼の生きている意味を奪ってはいけないということに気づいたことです。

「腑に落ちる物語」とは、自分の生きる意味を当人が改めて実感する「物語」です。自分の生きている意味を、実感をもって確かめられる「物語」であり、縛られていた世間通俗の価値観や偏見の「物語」から心が抜け出すことです。

それは、家族として持っている価値観を書き換えることであり、現実的に家族関係が変わることが結果されます。

病気には、お薬による治療は欠かせませんが、回復期には家族関係や社会関係を見直すことで、患者さん本人の「腑に落ちる物語」をもう一度見出すことが必要かも知れません。そのことは、家族自身が自分の家族関係や社会的価値観を見直す機会となるでしょう。



「仙台みどり会」寄付活動を始めて

昨夏に入会し早や一年がたちました。この一年で「仙台みどり会」会員の皆さんから、また学習会などの講師の方々から、多くの情報や貴重なご経験談を聞かせていただくことができました。パンフレットや書籍から知ること以上に、経験の蓄積から得られたお話は多くの知恵と力を与えてくれるものでした。そうした中、家族会の一員として何かできる

仙台みどり会会員 M・O (男性)
ことは、と考へ、始めた活動をご紹介させていただきたいと思ひます。

少し長い前置きになりますが、私は「ハリバット(北の海の巨大なカレイの一種)」という釣りクラブの会長を務めており、友人たちと仙台湾の船釣りを楽しんであります。釣り物はカレイやヒラメです。塩釜の船頭さんの腕がいいのでしょうか、毎回ご近所の方々におす

そ分けできるくらいの釣果があります。そこで、もうひと頑張りし、「仙台みどり会」(以下、家族会)に寄付をしていただいた方々へのお礼として釣った魚を差し上げ、皆さんに喜んでいただければ、と考えました。こうすることで家族会の活動に関心を持っていただき、またご支援いただくこともできる、と考えたのです。もちろん家族会の会員の皆さんにも趣旨をお話した上で、会費とは別に寄付をいただいた際にはお礼に魚を差し上げることにしました。

こうした活動をやってみたいと、家族会会長の黒川さん、世話役の磯谷さんに相談し、了解をいただくことができました。たまにはこういう試みも新鮮でいいかな、と思っていただけたとは思いますが、そんなに都合よくいくのかな、そもそも釣れなかったら…??というところだったと思います。ともあれ了解いただければ出発進行、“まだ釣ってもいない魚”をお礼に差し上げます、と声かけを始め、寄せられた希望枚数はなんと六十枚。一万円くらいの寄付が集まればいいなあ、と根拠のないどんぶり勘定のスタートでした。

こうして、四月末に「ハリバットカレイ釣り大会」を開催、メンバー十二人が目の色変えて頑張り、大小六十枚のカレイが私のクーラーボックスに集まりました。各自必要な分は確保したようなので頑張りが大漁につながりました。帰宅後、カレイのぬめり、うろこ、

ワタを取り、真空パックに入れて冷凍庫へ。すべてを終えて私がシャワーを浴びたのは午前二時でした。

そして五月、家族会の懇談会の場で、また友人たちとの集まりの場で寄付をいただき、冷凍真空パック詰めにしたカレイを保冷バッグに入れてお礼にお渡ししました。解凍してすぐに煮たり焼いたりできます。三十cmを超える大型のカレイも混じり、スーパーにはない肉厚で食べ応えのある新鮮な味を楽しんでいただけたと思います。ただ、大きいカレイは適当な大きさに切らないと鍋にも網にも余り、出刃包丁を持っておられない方には申し訳ないことをしてしまったと反省しています。

こうしていただいた寄付金総額は、およそ一万五千元にもなりました。改めてご寄付いただいた皆さんに御礼申し上げます。ありがとうございました。なお、「ハリバット」には、寄付金の一部を釣りで使う錘(おもり)、パッキング袋、保冷バッグなどの消耗品費用として頂きましたこと、申し添えいたします。

これからはヒラメのシーズンです。また企画させて頂きますので、今後とも家族会の楽しみの一つとして受け止めていただければ幸いです。



希望を失わずに

息子が高校卒業間近になったある日、「お母さん、俺、眠れない日が続いていて、このままだと頭がおかしくなりそうだから、病院に連れて行って!」との言葉から始まった病気との苦悩の日々から、早18年の月日が過ぎました。

病名は強迫性障害と統合失調症。

仙台みどり会会員 K・T (女性)

服薬治療後5年が過ぎたころ、突然まぶしくて意志に反してまぶたが下がり、目が開きづらいという症状が出てきました。私は薬の副作用を疑い、主治医に相談したところ、心因性といわれましたが、次第に進行し、歩行時、食事時など、視力があるのに目がふさがり、食べ物をこぼしたり、小物にぶつかり、けが

をしたりの状態になり、神経内科、脳神経内科など、何か所も診察を受けましたが、心因性とのことでした。

息子のような人は、他にはいないのだろうかと思ったりして、なすすべもなく時間だけが過ぎていたある日、ドライアイで眼科の診察を受けた時、抗精神病薬等の副作用による眼けいれんに間違いのないといわれ、現在はボトックス注射と薬の減量で対処するしかなく、完治は難しいとのことでした。眼科で病名がつくまでに、症状が出てから6年も過ぎていました。

精神科では、今でも薬が原因ではないと言っていますが、薬の減量には協力してくれています。目が開きづらくても働きたいとの本人の希望もあり、自分に自信を取り戻したいとA型事業所で野菜の袋詰め作業をすることになりました。目の開きづらさや緊張感もあり、慣れることだけで疲れ切っている様子でした。その本人に対して、手早く仕事ができない、賃金分も稼げていない、他の人の足を引っ張っているのに気づかないのか、目の開きづらさは直す気はあるのか、歩く姿がおじいちゃんみたいだと、行くたびにひどい言動

を受けて「俺、行くたびに自分は駄目な人間だと自信を失っていく。」と息子は話し、1年半ほど頑張りましたが体調をくずし辞めました。辞めてから、両親につらさをぶつけるようになり、暴言を吐いたりして親子の関係も良くなく、私も次第に追いつめられている心境になりました。

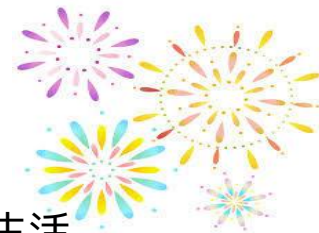
これではだめだと思い、家族会に入会し、自分の思いを聞いていただいたりして少し楽になりました。

私は今まで、息子の回復のためにはどうしたら良いのかばかり考える日々を過ごしていましたが、最近はもっと自身をもいたわり大切にしなければと気づき、旅行したりして自分の時間を作るようにしています。

先日、息子が体調が良いようで、台所の食器の片付け、花の水やり、居間の拭き掃除など、黙々とやっていました。

「ふう、疲れた」と笑顔で私に話しかけてきたので、私も「ありがとう」と笑顔で返しました。お互い、久しぶりの笑顔でした。

いつか良くなる。希望だけは失わずにしようと、心新たにした日でした。



息子の発病とグループホームの生活

仙台みどり会会員 M・H（女性）

私には息子が3人います。長男と次男は結婚し、すでに子供もいます。当事者の三男は小学生の頃はあまり勉強もしないのに成績がよく、友達も多く、明るい性格で野球部のキャプテンでした。中学生になってからは成績が下がり、いろいろと問題を起こすようになりました。本人も悩んでいたのでしょうか。母親の私が早く気がついて、精神科の病院へ連れて行っていたら……と思うと残念でたまりません。三流高校を卒業してから、有名自動車工場で働きましたが辞めてしまい、失業保

険を受け取れる期間はブラブラして、保険が切れるとまた働きだすという有様でした。

21歳のころ、「誰かが見ている」と言ったり、市営アパートに住んでいたのですが、私には感じないのに「上の人の足音がうるさい」と言ったりでした。その頃から三男は精神病だったようですが、私は全然気がつきませんでした。仕事を探し続け、たくさんの職場の面接を受けては全て落ちました。その後、福祉作業所も4か所申し込みましたが、満員で入れませんでした。

三男が面接で、「一生懸命働きますから、よろしくをお願いします。」と、低く頭を下げる姿を見て、私は惨めな気持ちになりました。

私は「みどり会」、太白区役所の「おしゃべりサロン」に入りました。私の心が少し落ち着いてきました。

幸い、知人の紹介で障害福祉サービス事業所「おいしいパン屋さん」に通うようになりました。精神障がい理解のある職場で、本当に良かったと思っています。1日6時間、週5日の仕事です。5年間くらいまじめに働いていましたが、病気が再発してしまい、その後、相談支援事業所の所長さんが一生懸命に次の居場所を探してくださり、歩いて通える近所の「ひまわりファミリー」に通うことになりました。

やっと落ち着いたかと思えば、ヘビースモーカーと塩辛いもの、甘いものが好きで、糖尿病の治療はしていましたが、治療はやめていました。精神科の治療は続けていました。

平成27年7月、突然意識不明になりすぐ救急車を呼びました。2日間意識がなく、3日目に意識を取り戻しました。宮城野区にある仙台医療センターでした。そこで足の手術もしましたが、発見が早く元通りになりました。その病院には精神科もありました。糖尿病もだいぶ良くなり、退院ということになりました。

病院と相談支援事業所と話し合いをすることになった矢先、今度は私が救急車で運ばれ、

4か月も入院しました。脳梗塞だそうです。家には誰もいません。息子は戻れなくなってしまいました。その後、私は退院しましたが病み上がりのため息子の世話はできません。自宅にはヘルパーさんに来ていただき、お世話になっています。

息子は、支援する皆様のお世話で、仙台医療センターから宿泊型の生活訓練施設「さわやかライフ愛子」へ移り、2年間の訓練期間を終えることができました。

平成30年1月から青葉区の「グループホーム上杉」に入所しています。月曜から金曜まで、市場に4~6人くらいで野菜詰めのアルバイトをしています。病院にも一人で行くようになり、洗濯もしていると言っています。

長男には、「お母さんが面倒を見るから、何にもできない人間になってしまう。」と、よく言われていました。親が精神障害のある息子の面倒をみるのは、当たり前と思っています。障がい者は一人では生きていけません。焦ってはいけないと思っても焦ります。

「親がどんなことをしても変わり映えがない。」というお母さんがいますが、そんなことはありません。すぐには良くならなくても、親が変われば子も変わります。

私は「みどり会」に入会して長くなりますが、私と同じようなことで悩んでいる人たちと話をすることにより、私自身もだいぶ変わりました。もっと多くの人が、「みどり会」に入ってくれることを願っています。

家族研修会のご案内

みどり会家族研修会

「生活保護の制度について」

日時： 令和元年8月28日（水） 午後2時30分～4時

場所： 福祉プラザ 10階 第4研修室

講師 仙台市青葉区保護課担当者

参加費： 無料。直接会場へお出かけください。



平成 31 年度 北海道・東北ブロック家族会研修会のご案内

○と き 平成 31 年 9 月 24 日 (火) 午前 10 時～午後 3 時 50 分

○ところ 仙台市シルバーセンター交流ホール

○開催テーマ 「時代はかわる、家族はかわる」

～これからの地域ケアといっしょに学べる家族会活動～

基調講演「これからの地域医療と福祉への期待」

～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

東北福祉大学教授・せんだんホスピタル副院長 西尾 雅明 先生

シンポジウム「これからの地域社会を考える」

シンポジスト 宮城大学看護学群 精神看護学領域

地域支援センターぱれっとよしおか

多賀城市家族会さざんか会

司 会

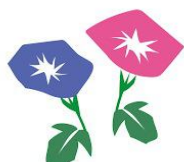
社会福祉法人ゆうゆう舎理事長

お申し込み

会員は同封の振込用紙で、
会員以外の方は、申込書
でお申し込みください。

(詳細は 5 ページ参照)

締め切り：8 月 2 日



小松 容子 氏

西村 真希 氏

関本 則子 氏

釣舟 晴一 氏

～ これからの『仙台みどり会懇談会』開催の予定 ～

精神障がい当事者を抱える家族同士が気軽に参加して
悩みを語り合い、体験を出し合って学習し、お互いに元気をもらっています。
まだ会員でない方も、どうぞご遠慮なくお出かけ下さい。

令和元年 7 月版

7 月 21 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室
8 月 18 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室
9 月 15 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室
10 月 20 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室
11 月 24 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室
12 月 15 日	日曜日	午前 10:00～12:15	仙台福祉プラザ	10 階 第 2 研修室

□仙台みどり会懇談会の後、「お昼の会」があります。ご利用ください。

・時 間：懇談会終了後～14 時。ゆっくり息抜きをしていただくのが目的です。

・参加は自由。弁当を食べたり、お茶のみ、雑談、個別の相談もどうぞ。

□会の運営は、皆さまからの会費（年間 4,000 円）で成り立っています。ご協力を
お願いいたします。 ※会費には県の上団体「宮家連」の会費 1,500 円が含まれています。



〒981-3204 仙台市泉区寺岡1-20-16 黒川方

精神保健福祉家族会 仙台みどり会事務局

電 話・ファックス 022-377-1966 ホームページ <http://sen-midori.jimdofree.com/>

会員関係の皆さまの連絡先 080-2812-4835 (受付時間 9時～17時) ※ご相談の電話ではありません